

発行所
石川県保険医協会
〒920-0902 金沢市尾張町2丁目8番23号
太陽生命金沢ビル6階
☎(076)222-5373番 FAX(076)231-5156番
編集部E-mail; iskw_sugino@doc-net.or.jp
発行人 井沢 宏夫
印刷所 ソノダ印刷株式会社
購読料 1年間5,000円(〒共)
(※本紙の購読料は会費に含まれます)

石川保険医新聞

主な記事

- 2面 第8回会員デビュー講演会③
- 3面 第7回社会保障セミナー(最終回)
- 4面 保団連代議員会報告
池 田香代子講演会案内
- 5面 The・歯科衛生士⑤(最終回)
- 6面 クリニック光一事件について
- 7面 早川ドクターの山三味36(最終回)

今月の会員数/1,002人(医科723人・歯科279人)

石川県保険医協会

第31回

定期総会のお知らせ

とき 2005年3月5日(土)
午後6時～9時

ところ 金沢都ホテル 7階 飛翔の間

第1部 総会議事 午後6時～7時

第2部 記念講演 午後7時～9時

テーマ 偏向報道か被害妄想か
～ジャーナリストから見た今後の医療～

講師 読売新聞大阪支社 科学部記者 **原 昌平氏**

今年の総会記念講演は、『京都保険医新聞』にて「記者の視点」を連載されている読売新聞科学部記者の原昌平氏に今後の医療の在り方について問題提起をお願いしました。原氏はマスコミの第一線記者として、幅広い視点から日本の医療の在り方について見識ある発言をされている方です。

講演依頼にあたって、原氏にはジャーナリストの立場から今後の医療改革をめぐる諸問題とともに、日本のマスコミの医師に対する「偏向報道」について、どうすれば私たち医師の立場を公平に報道してもらえるのか、マスコミと医師側にある「谷間」を埋めるにはどうしたらよいかなどを、ざっくばらんにお話していただくようお願いしてあります。

多くの皆様のご参加をお待ちしています。

保団連10万会員達成記念のつどい

10万会員の総意を生かして

保険医協会の役割さらに大きく

「保団連10万会員達成記念のつどい」が一月二十九日、横浜市内で開かれた。全国から二百人余りの参加



35年前に1万人で結成された保団連は、昨年10万人を達成した

があり、全協会の総意と団結により、さらなる発展を誓い合った。

一九六九年一月に京都、大阪、東京、兵庫、福岡、神奈川の六協会一万人の会員で結成された「保団連」は、三十五年の年月を経て、昨年五月に念願の十万人会員を達成した。一九七五年五月に全国二十二番目の保険医協会として百四人で発足した石川協会が、千人会員を達成したのは三十年後である。全国比率一%といわれる石川県の指標に違わぬ貢献である。

一九八九年七月、沖縄県に保険医協会が設立され、すべての都道府県に組織が確立した当時の保団連会員数は六万三千人であり、全国各協会の役員・事務局が名実ともに保険医の生活と権利を守り、県民の健康を守る団体として努力してき

矯正歯科講演会(窪田ゼミナール)のご案内

筋機能療法って何

講師 窪田 正宏氏 (くぼた矯正歯科医院 院長) 森 郁子氏 (くぼた矯正歯科医院 歯科衛生士)

開催日時 2月20日(日) 午前10時～午後0時半

開催場所 金沢都ホテル 5階 兼六の間 (JR金沢駅正面 TEL 076-261-2111)

参加対象 歯科医師、歯科衛生士 (今回は衛生士さんも対象になります)

参加費 会員医療機関 1,000円、非会員医療機関 5,000円
※テキスト代込み。テキストは当日配布します。※非会員の方は、当日受付にて入会申し込みいただければ会員会費で受講できます。

「記念のつどい」では、混合診療の「実質解禁」への対応、社会保障の一体的「改革」や消費税増税など憲法二十五条の空洞化や九条改憲の動きが急テンポで進められており、保団連・保険医協会の果たす役割が一層重要になってい

たたまものである。「記念のつどい」では、これからは保団連十万人への対応、社会保障の一体的「改革」や消費税増税など憲法二十五条の空洞化や九条改憲の動きが急テンポで進められており、保団連・保険医協会の果たす役割が一層重要になってい

たたまものである。「記念のつどい」では、これからは保団連十万人への対応、社会保障の一体的「改革」や消費税増税など憲法二十五条の空洞化や九条改憲の動きが急テンポで進められており、保団連・保険医協会の果たす役割が一層重要になってい

医心凡語 人体は、二十五時間のサイクルで新陳代謝をしているという説がある。書物で見た。もしそうだとしたら、地球の自転は二十四時間だから、一時間余るわけである。一般社会人の毎日の生活パターンはおおよそ決まっているから、一日を食事、仕事、休養、睡眠とこなし

て、さて、余ったエネルギーサイクルの時間をどうする? 社会生活に束縛されない自分だけの自由時間なのである。現実的にこんな論法は通用しないわけだが、夢があっても良いのでないか▼そのつもりで、人によっては瞑想する、趣味に没頭する、思想・信条を反すうするなど、ちよつと得をしたような楽しい話でないか▼そこでこの一時間を使って、近ごろかましい改憲論を考えてみた。第九条は、極めて簡明な表現である。願望ではない。日本国民われわれ皆が、時の政府に与えた命令なのだ。「集団的自衛権」などという解釈は論外である。「交戦権」とは「戦力」をもって人を殺しても罪を問われないことを意味し、自衛権とは別ではあるが、政府がいま行っている追従国策こそ、第九条にとつてまさに累卵の危うさにあるのである▼憲法が保障している「基本的人権」も決して国が私たちに与えた保障ではなく、私たちが国に命令しているのだ。「有事立法」は、すでに憲法を犯している▼一時間が過ぎた。眠い。

第七回(最終回) 社会保障セミナー 井上英夫教授と討論

人権のない手をどう育てるか?

「人間の尊厳とは?」

「医師を人権のない手とする方策は?」

会長 井沢 宏夫(金沢市・内科)

七回にわたって開催されてきた「社会保障セミナー」... 日常診療中に「患者の尊厳」と願っている人は多いであ...

について、井上教授との対話形式によるセミナーとなつた。「人間の尊厳?」という...

族は患者の権利を守る立場の者として扱われ、重篤な病の時など、患者の代弁者として振舞い、医師もそれを...

持論

患者平等を第一とする日本では、一つの病気に保険診療と自由診療を併用することを禁止して...

あるからだろうか。歯科における賛成派は、長年認められていたのだから、取り立てて騒ぐ必要がないのでは...

くか縮小していくか言うまでもないだろう。だからこそ、石川県保険医協会は『解禁』に反対する立場をとるのである。

『混合診療の禁止』解除に反対 憲法の精神を守るべき

しかし、政府の規制改革・民間開放推進会議は全面解禁を求め、「国民の意思」を置き去りにしたままの調整が続いている...

自分が自分の判断に基づき、より良い医療を望むことだから認めらるべきだ。次期医療保険制度の抜本的改革の見直し項目に「患者選択同意医療」としても挙げられて...

この日本国憲法の精神をも踏みにじる制度改悪を無理押しする究極目的は、ただ一つである。政府、財界、厚労省とも一致する狙い、すなわち「医療費の抑制・縮小」である。

協会の総枠を縮小させないことを最低限の目標に、「総医療費の拡大を目指すことが国民にとって大切である」との立場に立って運動をあらゆる機会を通じて展開する覚悟である。

囲碁解答 黒1から3と攻め5が決め手で... 10-4の所 11-9の所

将棋解答 3二金、同玉、2一角、2二玉、3二金、同玉、1二角成、同玉、2三飛成、同玉、2二飛、1三玉、2五桂まで十三手詰め。

『座談会特集』発刊に寄せて 市民の視点を見失わないために 機関紙・文化部長 大平 政樹(金沢市・外科) 協会30周年記念事業の一環として、座談会特集が発行されることになった...

『座談会特集』は、会員みな様に本紙と一緒に送りました

04~05年度保団連第2回代議員会 参加報告

石川から

「チームによる患者中心の医療活動」を提言

理事 平田 米里 (野々市町・歯科)

1月30日(日)、新横浜プリンスホテルで、04~05年度保団連第2回代議員会が開催された。私個人としては、ずいぶん久しぶりに参加したことになる。会の運営は精練されていた。参加者には熱気もあった。あまたの内容に関しては全国紙の報道に譲るとする。付け加えるなら、私も保団連研究部の一員なので、今回研究部に属する報告提案が多かったことを素直に喜びたいというところか。

また、代議員会の後で『混合診療の実質解禁に反対する』に関する決起大会が開催された。昨年12月15日の尾辻厚労相と村上規制改革担当相の混合診療に関する『基本合意』に関しての認識は、『実質解禁』ではなく『全面解禁』が正しいとする保団連認識にはいささか驚いた。

以下、石川県の報告を掲載する。

<発言要旨>

在宅における『食』を多職種チームによりサポートする活動

第2回保団連代議員会・提案資料の「2005年度の重点課題と活動のすすめ方」では、昨年10月に「痴呆高齢者の身体・心・口腔を地域で支える」のテーマで開き、盛会となった保団連地域医療交流集会の成果を生かして、各地で医科歯科の共同による医療活動に取り組む研究会や交流会を推進するよう提案しています。

石川協会では、これまで歯科部の企画として口腔ケア講演会をシリーズ開催してきました。最近では医科・歯科の合同企画で、石川県言語療法士会との共催により「摂食・嚥下障害」をメインテーマに「医師とコ・メディカルのための講演会」を連続開催して好評を得ています。石川協会の「医師とコ・メディカルのための講演会」の今年の企画は、「食を考える」です。在宅ばかりでなく、広く地域住民のQOLを支えるものは、まさに「食」です。

しかし、一口に「食」と言っても(生きがい)(栄養管理)など内容は多彩です。そこには、医師や看護師の関与は言うに及ばず、交合などの機能改善は歯科医師、そして口腔ケアには歯科衛生士、嚥下などの機能回復のためには言語聴覚士も関与することが必然となっています。加えて、今回から管理栄養士が加わったことによって、どのような食材をどのように調理すると障害を持った方々が食べやすいか、といった具体的議論も可能になりました。

石川協会は、あくまでも「患者中心の医療」を提供するために、「チーム」としてかかわる方法を模索します。「チーム」にこだわるのは、医療者が自分の専門領域を存分に提供しながらも、決してその専門領域に固執せず、「患者のために」何をすることが最善かを追求するためです。

この企画では、「食・栄養」に関わる各専門職がテーマに迫ります。医科歯科共同体の保険医協会では企画できない内容で、当協会歯科部と学術・保険部が総力を結集して開催するシンポジウムです。担当者は石川県下全般に、病院はいまでもなく、特に在宅において『食をチームでサポートする』ことを広く推進すること、そして全国の類似企画を進めている協会などと交流を持ちたいと考えています。

「一人ひとりにできること」のヒントがいっぱい 池田香代子さんの講演会に、ぜひご参加を

池田香代子講演会 実行委員長 小原美由紀

私が池田香代子さんを知ったのは、2001年でした。9月11日のすぐ後にできた『報復ではなく、平和的解決を求める』メーリングリスト(メールで意見交換をするグループ)での出会いでした。当時そのメーリングリストには1,000人ものメンバーがいましたが、池田さんとは共通の話題などがあり、個人的にもメールを交わしていました。

「今度、本を出します」とお聞きしていたのが、ミリオンセラーとなった『世界がもし100人の村だったら』で、翻訳家でいらっしゃることもそのときはじめて知りました。

池田香代子さんの魅力は、決して他人任せにせず、批評家にならず、常に行動の人であることだと思います。難民問題では自ら街頭に立ち、イラク問題では精力的に国会議員会館を回り、政治家との対話を試みられました。ご自宅では環境のためソーラーパネルをつけミミズを飼っていらっしゃいます。

昨年、「世界平和アピール7人委員会」の委員にもなられ、全国からの講演依頼があつた池田さんですが、“フツウ”の感覚を忘れず、私たちと一緒に泣いたり笑ったり、時には怒ったり……。そんな気さくでチャーミングな池田さんのお人柄が講演にもそのまま表れています。難解な事柄を分かりやすく豊かなことばで話してくださること、最新の情報が盛りだくさんなこと、それから、より望ましい世の中にするために「一人ひとりにできること」のヒントを与えてくださることなど、おすすめポイントがいっぱいです。

4月10日はぜひ池田さんに出会いに教育会館へいらしてください。



市民公開講演のご案内

『100人の村』から憲法が見えた

私たちは無力ではなく、微力なのです。

とき 2005年4月10日(日) 14:00~16:00



ところ 石川県教育会館 3階ホール (金沢市香林坊アトリオ裏 電話 076-222-1241)

参加費 500円

主催 池田香代子講演会実行委員会 石川県保険医協会・核戦争を防止する石川医師の会

問合せ 石川県保険医協会 E-mail: iskw_kanda@doc-net.or.jp 電話 076-222-5373/Fax 076-231-5156

のぼる君の新刊紹介⑦

『覚悟 戦場ジャーナリストの夫と生きた日々』

小島 登(内灘町・歯科)

「戦場」という現代日本に無縁な場と、四半世紀にわたって向かい合った日々をあますところなく綴った手記である。

事件のことごとくが“迷宮入り”し、曖昧にしたまま、手をこまねいているだけの政府、その姿勢を正面から批判、追求しようとする新聞やテレビ。

2003年11月、ほとんど同じ場所でスペイン国家情報局の職員が襲われ死亡した時、なぜスペイン政府は犯人及び資金提供した武装勢力リーダーなど41人を拘束できたのか。



1. カメラの前では見せなかった葛藤

2004年5月27日、ジャーナリスト橋田信介イラクで死す。

「夫を亡くしたのに、なんと気丈で強い女性なのだ」という印象を持たれた方が多かったようですが、心も体も“抜けた”ような状態でした。毎晩のように枕を涙で濡らしていました。「私はまだ、私の携帯電話に入っている、あなたの番号を消せずにいます」。

「戦場ジャーナリストの妻」としての“覚悟”が、変えることのできない現実と直面したら、自動的にスイッチが入るようにいつの間にかできあがっていたのでしょうか。次にやらなければならないことがはっきりしていました。事件の解明に向けた努力など、誰も何もして

いませんでした。私は自力で真相を探る決意を固めていました。

2. 襲撃グループが自らの行為の誤りを認め、謝罪しました

運命の悪戯でしょう。襲撃された、まさにその日付の新聞に「2人の日本人ジャーナリストが、目を負傷したイラク人少年を日本に連れて行って、助けてくれる。彼らは30日に日本に向けて出発する予定だ」「ハシダとオガワはイラクの敵ではない」ことが地元で知れ渡りました。

襲撃犯はイラクの「恩人」ともいえる日本人2人を殺害したことを知りました。統治の実情が完全な「部族社会」であったことと民間の協力者が奮闘してくれたことから、真相に迫ることができました。日本政府はほと

んど何もしてくれませんでした。

「アメリカのCIAと間違えて襲撃してしまった」こと、「人違い」と気付きますと、なんとかその命を救うために車に乗せましたが、息絶えてしまったため、仕方なく人目に付きやすい所に遺体を置いて走り去ったことを明らかにしました。それは、「日本人を狙い撃ちにした」というストーリーとはかけはなれたものでした。

3. 日本政府の対応

日本人大使館員は自ら調査に赴かず、「現地スタッフ」大使館に雇われたイラク人警備員に任せました。現地大使館には、せめて遺体の確保、現場(車とホテル)の保存ぐらいきちんとして欲しかったです。自らできなければ、イラク警察やCPA連合国暫定統治当局に協力要請すべきではなかったのでしょうか。警察の目的が真相究明などではなく、「法に則って、司法解剖をやりました」という一枚の文書を作成することにあるのは、火を見るより明らかでした。

最初から日本人が狙われたのでしょうか、それとも人違いだったのかということは、国の対イラク政策を左右するキーポイントです。「犯人の謝罪」にビビッドに反応したアメリカの知識人たちと比べて、日本政府の受け取り方のなんと鈍いことでしょう。

4. 訴訟を起こしました

商用目的の「海外旅行傷害保険」に加入していましたが、AIU保険は保険金の支払いを免責事項のため拒否しました。そのため、「事件当時のイラクの状態が、AIUの免責条項に合致するかを決める基準は何か」の訴訟を起こしました。原告は私と息子です。

一保険会社が「今のイラクは間違いなく戦争状態だ」と主張しましたが、決定権を持つのは、日本国の政府、もっと言えば民主的な手続きで選ばれた「最高責任者小泉首相」以外に考えられません。「非戦闘地域だから」と自衛隊を送った小泉首相に、日本国家がはぐらかし続けてきた「本当のところはどうなのか」を問います。

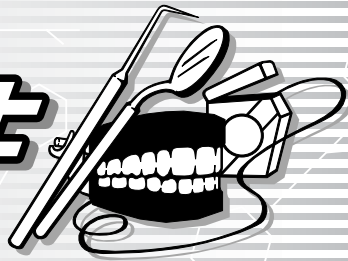
5. 「橋田メモリアル・モハメドくん基金」を設立

たったひとりの少年の「日本人に助けってもらったんだ」という言葉の重みを受け止めて欲しい。天が使わした子かもしれません。

「人権」とか「人道」とかのカンバンって、いったい何のためでしょうか。もともと、サマワの中心にはユーフラテス川が流れていて、基本的に水に困る地域ではありません。フランスのNGOが、地元民約60人を雇用し、地元の市場で1.5リットル入りのミネラルウォーターを日本円で約50円で供給しています。そこへ、日本政府が「復興に向けた人道支援」として、自衛隊が80トンの給水活動に1日1億円の予算をかけています。イラク人の仕事(換算すると約270万円)を奪いかねないことをしています。

The (5回シリーズ) 歯科衛生士

木津冬華 (平田歯科医院・歯科衛生士)



最終回 新人歯科衛生士の奮闘記

勤務したころは何もかもが初めてのことでばかりで、余裕もなくただ言われたことをこなそうとすることで精一杯でした。衛生士学校で勉強はしてきても、生身の体ではどう反応するのか予測が付かなくて何をすることもいちいち具体的な指示を受けないと安心できませんでした。自分の手技に自信がないので、何をしても上手くできていないように感じ、私にこの仕事は向いていないのかもしれないと考え込む日もありました。

ある日も例によって、患者さんを前にしてどうすればよいのかと悩んでいると、『おまえは、歯科衛生士になったのだから、自分の判断で患者さんに接すればいいんだ』と言われ、少し安心もし、自信が付いたことを覚えています。しかし、それからでも、ただ経験を重ねて、それなりにこなせるようになってホッとしていたというだけで、向上心というものがなかったように思います。

しかし、私にも歯周病の患者さんの『担当』ができたことで、一変しました。自分が少しでも向上しない限り患者さんの要求に十分こたえられないばかりか、迷惑をかけることに気がついたからです。医療人としての責任の重さに気がつきました。それからは、患者さんの口腔が少しでも改善されるようにアシストできたら・・・と思いながら仕事をするようになりました。そのうち、患者さんから感謝の言葉をかけていただく、とても嬉しく、以前よりも仕事が楽しくなりました。

相手が何を求めているのか理解するために、そして患者さんの意識を高めるためにも、キチンと向き合っコミュニケーションを取り、一緒に考えていくという過程を経ることが大切なことだと気づきました。手技の向上も大切ですが、会話をすることで、正しい情報を伝えたり、誤りを正すことも重要なポイントだと思います。就職してまだ2年にもなっていませんから、先輩から見ればまだまだ見劣りすると思いますが、少しずつでも向上するために頑張りたいと思います。

編集部から

歯科衛生士のみなさま、5回にわたる連載の執筆ありがとうございました。

来月からは新シリーズ「The・管理栄養士」(6回シリーズ)が始まります。ご期待ください。



おサル先生の 在宅医療入門

小川 滋彦 (金沢市内科)

『在宅NSTの訪問栄養指導』の巻(その四)

理栄子のしたことは、まろりーが加わるものだから、総エネルギー量として百六十四センチ、体重四十六キロ、BMI十七・七、筆者はうかつにも連載第六十五回(昨年十一月号)で「体重四十六キロ」と書いてしまったが、奥さんと物置きを捜してほこりにまみれた体重計を引っ張り出した。きたのは理栄子だったのだから、実際の所この時点で初めて体重測定を行ったことになる。Aさんは理栄子に心を開いたからこそ、体重計に乗ったのであり、いっしょにその目盛を見て「六十五キロあったはずなのに・・・」と驚きの声を上げ、現状がいかに厳しい状態で何とかしなくてはならないことを、自らの問題として受け容れたのである。

おおよそ週に一回の訪問を終え、理栄子はおサル先生にその日の成果を報告するのだが、データ的なことも含まれるので以下は理栄子のノートから書き出していき。聞き取り法による食事調査では、主なエネルギー源は半消化態経腸栄養剤と牛乳からみ確保されておられ、あわせて一日千六百六十キロカロリー。ここに日本酒三合の六百キロカ

新刊紹介

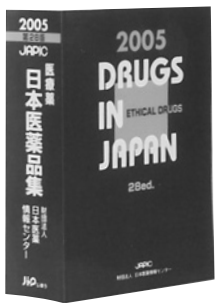
『医薬品 日本医薬品集』

～お申し込みは、書店または(株)じほうへ～

“ハードディスク完全インストール” タイプCD-ROM 日本医薬品集DB

簡易院内医薬品集作成機能を搭載!
→CD-ROMシステム内に院内医薬品DBを構築し、
随時メンテナンス・随時印刷が可能。

本書は、わが国に流通する全ての医療用医薬品約18,000品目について、組成、効能・効果、用法・用量、使用上の注意、作用、該当商品名(会社名)などの情報を収録し、審査関係の基準書にも使用される、大変権威ある医薬品事典の最新版です。



編集 (財)日本医薬情報センター
発行 (株)じほう
定価 書籍のみ23,500円
書籍CD-ROMセット
42,000円(送料500円)

(株)じほう
電話: 03-3265-7751
FAX: 03-3265-7769

いしいし、嚙下しやすいのだそう。奥さんが市場で手に入れてきた蓮根を二人で調理する。理栄子は、だいたい午前十時に出かけて行って、お昼ごろには帰ってくるので、二時間くらいはAさん宅に居ることになるが、それでも出来上がった「蓮蒸し」をご本人がちゃんと食べてくれたかどうかは見届けてはいない。だから、帰院後もずっとそわそわして、午後二時を打ってから矢も盾もたまらず、Aさん宅に電話を入れた。そして、「先生!蓮蒸の大きさが見てとれた。よし、そろそろ自分も久しぶりにAさん宅を訪問しよう、とおサル先生は決めた。

「先生。この写真、ご主人が撮ってくださいませんか。」

もうそれだけで、Aさんの快復の兆し、そして理栄子のこの夫婦における役割の大きさが見てとれた。

よし、そろそろ自分も久しぶりにAさん宅を訪問しよう、とおサル先生は決めた。

「クリニック光一事件について」

2005年2月1日
石川県保険医協会 会長 井沢 宏夫

昨年来、金沢市の会員医療機関の保険不正請求が報道され、今年にいたり刑事事件として院長の逮捕に至っています。事件の詳細は既報の通りですが、報道が事実とすれば、保険医協会の理念に反するものであり、会員がこのような行為を起こしたことを心から残念に思います。この場を借りて、市民と協会会員の皆様に石川県保険医協会の役員を代表して、深くお詫びする次第です。

言うまでもないことですが、保険診療は契約診療であり、様々の法律の下に成り立っています。その法律、診療上のルールは「知らなかった」で済む問題ではありません。

われわれ開業医は、ともすれば患者さんの診断や治療に集中し眼を奪われがちですが、それだけでは社会的な責任を果たしたことはありません。

小泉政権は、相次ぐ社会保障の改悪を行い、年金や医療、介護保険などを縮小・矮小化し続けています。昨年来「混合診療解禁」や「老人医療費の圧縮」など国民負担をかけているのもその一端です。弱者を狙い打ちにするような医療改悪政策を阻止するためにも、まず開業医自らが襟を正し、市民の信頼を得なければどんな運動も実を結びません。

われわれは自戒の念を込めて、会員諸氏の一層の努力と協力をお願いするものです。

『保険医の経営と税務(2005年版)』

**ご希望の会員に
進呈**

※ご希望の会員には1冊無料でお送りします。
FAX・E-mailでお申し込み下さい。

先着300人様
(締切: 2月末日)

■お申し込みは協会事務局まで。

医療に係わる確定申告の実務書として、また、医療を守る立場から、激変する税務情勢を鮮明にし、これを医療経営に生かせるようにと、今年も改訂版が発行されました。

1章の医療所得の計算も、フローチャートなどにより、申告、調査の流れを詳しく解説しています。

主な内容

■確定申告のポイント	■第4章 医療法人	■第7章 消費税
■第1章 医療所得の計算	■第5章 共済制度と税金	■第8章 地方税の計算
■第2章 開業・承継・閉院	■第6章 スタッフの税務と給与実務の留意点	
■第3章 相続税・贈与税		



特集/経営対策シリーズ2005
保険医の経営と税務
確定申告・医療経営改善のために

B5判・161頁 定価1,500円

FAX (076) 231-5156 TEL (076) 222-5373 E-mail: ishikawa-hok@doc-net.or.jp

よろけ養安



●わらび座ミュージカル
作／杉山義法
演出／井上 思

【ものがたり】 1幕 100分
 新庄藩に生まれた養安は、ある失敗から、9才でたった一人母に見送られて秋田藩へと逃れる。医者に拾われた養安は、御典医を目指して勉学に励む。ようやく医師免許を手にした時、院内銀山の火事に遭遇。「焼死した銀山お抱え医師の代わりに」と請われ、おしかけ女房のサツ子もやってきて、期限付きで引き受けることになる。
 持ち前のパワーとユーモアを持って、鉱山医療に立ち向かってゆく養安夫妻。
 やがて銀山は日本一の産出量を誇る「天保の盛り山」期に。町は江戸や上方からやってくる芸能で賑わい、藩からは褒美が贈られ、喜びに酔う人々。
 だが、養安の心は晴れない……。酒によるけながら養安はついに……。
 鉱山病のヨロケ・痘瘡、そして戊辰戦争……。家族と鉱山の人々に支えられながら、こけつまろびつ医者・養安が守り育てたものとは……。

日次 2005年 **3月15日(火)**
会場 金沢市文化ホール
 【開場】18:00 【開演】18:30

入場料
 ●指定席 [S席] **4,500円**
 [A席] **4,000円**
 消費税込み／当日券 500円増
 ※未就学児の入場はご遠慮下さい。

チケット販売所
 北國新聞社プレイガイド 076-260-8000
 香林坊大和プレイガイド 076-220-1332
 めいてつエムザヤマチク 076-260-2431
 香林坊プレイガイド 076-220-5155
 ●チケットのお求め・お問い合わせ先…
北國新聞社事業部／076-260-3581

●主催／わらび座「よろけ養安」金沢公演を観る会 ●共催／北國新聞社・テレビ金沢
 ●後援／日本医師会・(社)日本病院会・金沢市・金沢市教育委員会・石川県医師会
 金沢市医師会・石川県保険医協会・エフエム石川・ラジオかなざわ



奥大日頂上にて

早川ドクターの山三昧

【第36話】最終回
早川 康浩 (金沢市・内科)

この欄を書き続けて、あつという間の三年間。医者であり、ある時はエキスパートな登山家に変身する赤裸々な登山活動を綴ってきた。いよいよこれで最後となると正直寂しいような気もするが、一息つけるような安堵感も漂う。読者の方々には多くの声援を頂き本当に感謝の気持ちで一杯である。

今回は最終稿にふさわしいような内容で締めくくってみよう。

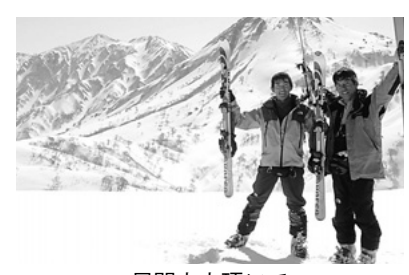
一方、医療においても向上心、探求心、責任感を持つて仕事にあたらないう時として誤診や医療過誤を起さず、患者さんの命が失われることにならない。このどちらも命が懸かっているという点では同じであり、決して安易に妥協することのできない世界だ。

また、日常の医療という激務の中で、山はどれだけ僕に癒しを与えてくれたことか分らない。プナの森の森林浴、神の存在をも感じさせるような朝焼けや夕焼けの光景、山に生きている動物との出会い、山の子どもたちとの触れ合い……。僕にとってはすべて非日常的な夢のような世界であった。また、凍えつくような厳冬の烈風下の稜線、猛烈なラッセルで雪まみれになりながら山頂を目指す行為などは、決してあきらめない、自分に負けないという強い精神力を養ってくれた。山はまさに試練と憧れの場であり、精神修養の道場であった。

僕にとって、山の無い人生など考えられず、山をやっていくからこそ仕事も相乗効果で充実して取り組めるのだろうと思う。これからあと何年このような生活を続けられるか分からないが、気力と体力が続く限り、山と医療の世界で完全燃焼し続けていきたいと願っている。

山と医療、一見まるで無関係に思える分野ではあるが、実はかなり関係する面も多い。ある時は山から多くのことを学び、これを医療に生かしてきた。また、医学から学んだ多くの知識を山にも取り入れて実践してきた。医者として山に入り、病気や事故に遭った登山者を診療する機会も多かった。このどちらも僕の人を支える両輪であった。

山、特に冬山では、常に完璧性が求められる。入念な準備、体力、気力、厳冬の北アルプスに挑戦するという行為は、このどれが欠けても大きな事故につながりかねず、時として自分の命を失ってしまうことになる。過去に何度も危機を乗り越ってきたが、もしこれらの一つでも欠けていたら、生還できなかったかも知れないという場面も数多くあった。



昼間山頂にて

「早川ドクターの山三昧」の連載終了にあたって

『石川保険医新聞』編集長 北山 吉明

3年間、36回にも及ぶエッセイ「早川ドクターの山三昧」が2月号をもって終了しました。先生自らが体験した登山の数々を迫力ある文章で綴ったこのエッセイは読者の人気が高く、『石川保険医新聞』の文化欄を代表する読み物となりました。さらに、『月刊保団連』にも連載され、全国の会員の目に留まることにもなりました。

さて、このエッセイの人気の秘密は、常識を超えた早川ドクターの単独登山にあります。「良い子はまねしてはいけません」と言いたくなるような、とはいっても実際はとっともまねのできない山登りをすいすいとやってのける早川ドクターのスーパーマンぶりに読者は痛快な達成感を感じるものと思われまます。そして、不可能を可能にする強靱な体力と精神力、綿密な計画作能力、そして山を知り尽くそうとする旺盛な知識欲、傍から眺めているとため息が出るような作者の人間像に読者は思わず吸い込まれていくのです。

このエッセイが会員に与えた影響はとて大きいと思われまます。なぜなら、事をなすにあたり、対象を真摯に見つめ、自己を研鑽し、ベストを尽くす、これは医療の基本であるからです。これら太い縦糸に「試練と憧れ」の横糸が織り込まれて、早川ワールドが作られていくのです。

素敵なエッセイを連載くださった早川康浩先生に心から感謝の意を表すると共に、『石川保険医新聞』に「続・早川ドクターの山三昧」が再掲される日を待ち望みながら筆を置くことにします。

